

(II) 私の飼料栽培

鹿児島県曽於郡有明町野神

屋附正男

数年前までの私の経営で最大の悩みは、自分達の食糧や販売作物を如何に効率よく作るかということよりも、家畜の食糧つまり牧草作りをどのように上手に作って確保するかということでありました。

特に冬期は、稲藁と濃厚飼料だけという栄養に乏しい餌付がありました。また夏は放牧を主としますが、これまた栄養の少ない野草だけで飼育しており、秋から冬にかけて、春の間はえんばくと少量のイタリアンライグラス、れんげ草を与え、結果として年間を通してみると、飼料が豊富な時期と極端に不足する時期があるという状況でありました。

私の家族構成は第一表の通りで、私が經營の中心となり、妻と父母が手伝つてもらえるという比較的恵まれた家族構成であります。また土地状況は第二表に示す通りで、畑作が主であります。水田山林も夫々保有しております。この点でもやり方如何では十分多角的に經營できると考えられます。第三表には農機具その他を表示しましたが、飼育している家畜は第四表の通りで、馬三頭と牛三頭が大家畜であります。そこで經營改善の最大目標を一月と三月と六月と八月の農繁期の青草刈り、十月と

第3表 農機具その他

カルチ	1	発動機	5	馬車	1
カッター	1	(石油力)		モーター	1
チョッパー	1	精米機	1	バ	
		圧扁機	1	イ	

第4表 家畜飼養状況

馬	3	サラブレッド	2	アラブ	1
牛	3	生産及び役用	2	仔牛	1
鶏	10	卵自家用			

第1表 家族構成(1964)

続柄	氏名	年齢	職
父	屋	62	農業
母	附	58	ククク
人	一	28	学
本	はるの		生
妻	正		
妹	カズ子	25	
	ヤス子	17	

第2表 土地状況(ヘクタール)

畠	2.5	山林	3.0
水田	0.8	原野	1.0

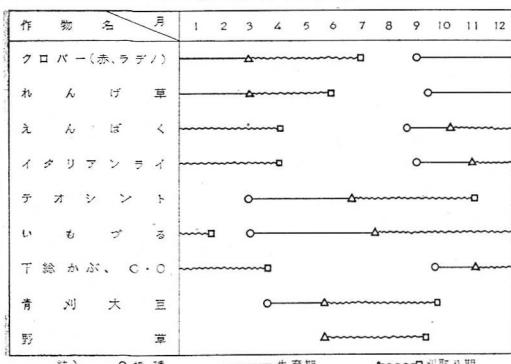
十二月の飼料不足期に如何に多くの青草を十分給与するかに設けました。このため技術者や経験者からも指導を受け、今までどうにか年間通して平均に青草の給与ができるようになりました。

これを説明しますと、冬は青刈りえんばかりと下総かぶ、C.Oを栽培することにより解決し、夏はテオシント、青刈大豆、サトウキビでまかない、春はクロバー(ラデノ、ケンランド)オーチャード、イタリアンライなどの牧草栽培をするようになったことが大きな成功の鍵だと思います。このために労働のピークが無くなり、年間の労働量が均一化され、更に地力がついてしまった。家畜の健康状態もよく、繁殖率も非常によくなつて参りました。



刈取期のテオシント

第5表 飼料栽培表



以上簡単に私の飼料栽培でうまくいっている頻繁な刈取方式を紹介申し上げました。最後に全般的な飼料栽培表を作成しましたので掲載いたします。

従い葉部を収穫して十月上旬より地際から刈り取りますと結局七~八回刈り取りができますので、少量の面積で多くの収量をあげられます。